

# 稲作管理特報

令和6年7月8日  
入善産米品質向上対策本部  
黒東地域農業技術者協議会

コシヒカリの生育は、草丈がやや長め、㎡当たり茎数がやや多めとなっています。また、田面がやわかいほ場が見受けられます。そのような場合は、幼穂形成期まで間断かん水の落水期間を長めとし、しっかり地固めしましょう。

幼穂形成期は、5月12日頃の田植えで、7月12日頃の見込みです。穂肥は、葉色・幼穂長などの生育状況を確認して施用しましょう。

## 【コシヒカリの生育状況】 (みな穂管内展示ほ10ヶ所)

年度	田植日	6月25日					7月2日					幼穂形成期
		草丈 cm	茎数		葉齢	葉色	草丈 cm	茎数		葉齢	葉色	
		本/株	本/㎡					本/株	本/㎡			
R06	5/12	50.8	27.4	570	10.2	4.4	62.1	27.1	563	11.0	4.1	7/12
平年	5/12	47.0	24.7	510	10.2	4.2	57.2	24.6	507	11.1	4.1	7/12

### 1. これからの水管理・・・暑い時こそ水管理が重要！

#### ①幼穂形成期～出穂期 ⇒ 飽水管理

- ・入水の間隔を短くし、常に足跡や溝に水が残るくらいの状態を保ちましょう。
- ・雨が続く場合は水尻を開けて落水しましょう。

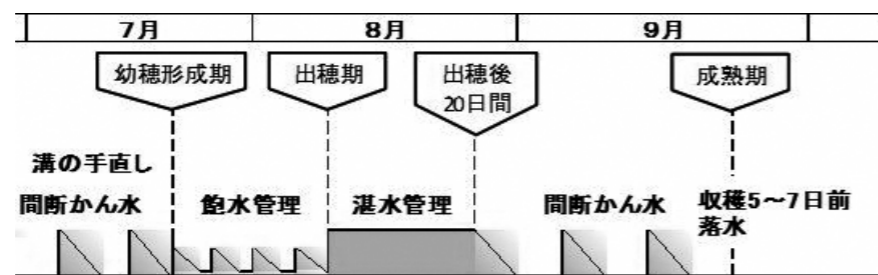
#### ②出穂期～出穂後20日間 ⇒ 湛水管理

- ・田面が出ない程度の入水状態を保ちましょう。
- ・水をためっぱなしにせず、地域の用水事情に応じて水の入替えを行いましょ。
- ・かけ流しは絶対に行わない。

#### ③刈取り5～7日前まで ⇒ 間断かん水

- ・稲体の活力維持に努め、胴割米の発生を防ぎましょ。

#### 【イメージ図】



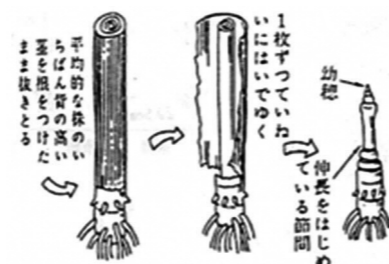
### 2. コシヒカリの穂肥

#### 【幼穂形成期の生育量の目安】

幼穂2ミリ確認時 (7月12日頃)		
草丈	茎数	葉色
72cm	470本/㎡	3.8

#### ▷幼穂長からみた出穂前日数の目安

出穂前日数	25日前頃	22日前頃	20日前頃	15日前頃	10日前頃	7日前頃
幼穂長	0~1mm	2mm	5mm	1.5cm	10cm	13cm



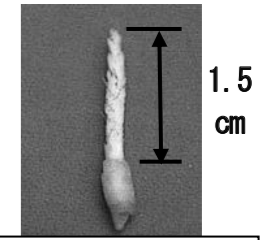
高温でも夏バテしないよう水管理をこまめに行いましょう！

### 【分施肥体系 (基肥206号) の場合】

- 1回目の穂肥は、必ずほ場ごとに幼穂長・草丈・葉色を確認して施用しましょう。
- 2回目の穂肥は、粒の肥大を良くし、米の品質低下を防ぐ効果があるため、**確実に施用**しましょう。

<穂肥施用の目安> (幼穂形成期：7月12日頃 出穂期：8月3日頃)

穂肥	第1回目	第2回目
草丈	82cm	-
施用時	幼穂長	1.5cm
	葉色	3.6
施肥時期	7月19日頃	1回目の7日後
肥料名	追肥3号	
施肥量	10kg/10a	12kg/10a



1回目穂肥施用時の幼穂

※1回目穂肥時の葉色が「3.8~4.0」のほ場では、施用時期を2~3日遅くするか、施肥量を7割程度に減らしましょう。

※葉色が「4.0」より濃いほ場では、1回目は施用しないでください。

### 【基肥一発肥料の場合】

穂揃期の葉色が淡いと、登熟期に高温となった場合、収量や品質が低下する恐れがあります。出穂7日前(7月27日頃)に、葉色が4.0(洪積土3.8)未満の場合は、追肥3号で5~7kg/10a施用し、穂揃期の葉色を4.2~4.5に誘導しましょう(砂壤土は4.5)。

### 3. 斑点米カメムシ類対策・・・草刈りと適期の防除で斑点米の発生を防止！

- 一斉草刈り後は、雑草の穂が出ないように管理しましょう。
- ※草刈り時の農作業事故や熱中症に注意しましょう。
- 適期の防除で効果を高めましょ。なお、コシヒカリの一斉防除予定については、後日、防除特報を発行します。
- 無人ヘリコプターの防除計画については、折込みチラシなどで別途ご案内します。

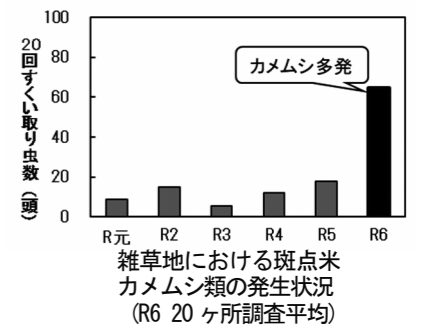
#### 転作田のほ場管理

- ・大麦や転作跡地はカメムシ類の繁殖好適地となるため、雑草が繁茂しないように管理し、カメムシの密度低下を図りましょ。
- ・ほ場の有効活用のため、積極的に大豆や園芸作物、緑肥等を栽培ましょ。

(例) 大麦跡 → クロタラリア (6-9月) → 水稻 (4-9月)

★JA みな穂営農情報メールを配信しています。

下のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。



主な情報提供内容  
・水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理  
・気象情報と災害防止の対策

